

2020年度 介護福祉専攻科

# 授 業 概 要

学校法人 昌賢学園  
群馬社会福祉専門学校

介護福祉専攻科 開講科目

科 目	単位	種類
社会の理解/人間の理解	2	講義
介護の基本A	4	講義
介護の基本B	4	講義
介護の基本C①	2	講義
介護の基本C②	2	講義
コミュニケーション技術	4	講義
生活支援技術A	4	演習
生活支援技術B	4	演習
生活支援技術C	4	演習
生活支援技術D	4	演習
生活支援技術E	4	演習
生活支援技術F	2	演習
介護過程Ⅰ	4	講義
介護過程Ⅱ	4	講義
介護過程Ⅲ	2	講義
介護総合演習	4	演習
介護実習Ⅰ	4	実習
介護実習Ⅱ	4	実習
発達と老化の理解	2	講義
認知症の理解	4	講義
障害の理解	2	講義
こころとからだのしくみ	4	講義
医療的ケアⅠ	3	講義
医療的ケアⅡ	2	演習

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 社会の理解		授業の種類 講義		授業担当者 齋藤 至孝	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科・後期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 知的障害者施設(就労支援施設)で生活支援員として7年、介護老人保健施設の支援相談員として8年の実務経験を活かし、実際の現場でのエピソードを交えながら、将来介護職についたときに役立つ内容の講義を行い、各自のイメージアップにつなげる。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 対人援助職である介護福祉士として様々な法律・制度を把握しておくことは極めて重要であり、授業において介護福祉士として業務を遂行していく上で不可欠な法制度の目的・意義・しくみについて理解する。</p>					
<p>[授業全体の内容の概要] テキスト「人間の尊厳と自立／社会の理解」を基に講義形式とする。また適宜詳細な資料やVTR教材等も活用し、難しいと思われがちな内容を、理解しやすく解説していく。</p>					
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 日本の社会保障制度と介護保険制度の目的と仕組みについて理解し、高齢者、障害者を支援する諸制度を実践力として身に付ける。法制度を単なる知識の習得ではなく、介護現場で役立つ根拠として理解できるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「家族・地域」について解説する【講義】</li> <li>2. 「現代家族とは何か」について解説する【講義】</li> <li>3. 「変貌する地域社会」について解説する【講義】</li> <li>4. 「わが国の社会保障制度の発展」について解説する【講義】</li> <li>5. 「介護保険法」について解説する【講義】</li> <li>6. 「障害者総合支援法」について解説する【講義】</li> <li>7. 「介護実践に関わる諸制度」について解説する【講義】</li> <li>8. まとめと解説</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点] 毎回授業で行うテキストの範囲を読んでおくことを前提とする。授業で行うテキストの範囲は事前に知らせる。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成テキスト 1 「人間の尊厳と自立／社会の理解」  (その他, 適宜資料を配布・紹介)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]  出席・授業態度 30%  試験(小テスト含) 70%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 人間の理解		授業の種類 講義		授業担当者 齋藤 至孝	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科・後期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 知的障害者施設(就労支援施設)で生活支援員として7年、介護老人保健施設の支援相談員として8年の実務経験を活かし、実際の現場でのエピソードを交えながら、将来介護職についたときに役立つ内容の講義を行い、各自のイメージアップにつなげる。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] テキスト「人間の尊厳と自立/社会の理解」を基に講義形式とする。また、適宜資料やVTR教材も活用し具体的な介護場面における「尊厳の保持と自立」について、倫理が概念化しないように演習も交えて実践に即した内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 人間理解の重要性を基盤に、その意義について正しく理解し、実際の介護場面における個々の尊厳の保持と自立支援の実践について、共通した重要視点を持てるようになり、その背景や論拠についても揺るがない倫理観と専門性を身につけることを目標とする。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「人間理解と尊厳」について解説する【講義・ディスカッション】</li> <li>2. 「人間の多面的理解」について解説する【講義・ディスカッション】</li> <li>3. 「人間の尊厳」について解説する【講義・ディスカッション】</li> <li>4. 「介護における尊厳の保持」について解説する【講義・ディスカッション】</li> <li>5. 「介護と自立・自律」について解説する【講義・ディスカッション】</li> <li>6. 「社会福祉制度における自立」について解説する【講義・ディスカッション】</li> <li>7. 「人間の尊厳と自立の実践者」について解説する【講義・ディスカッション】</li> <li>8. まとめと解説</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点] 毎回授業で行うテキストの範囲を読んでおくことを前提とする。授業で行うテキストの範囲は事前に知らせる。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成テキスト 1 「人間の尊厳と自立/社会の理解」 (その他, 適宜資料を配布・紹介)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度 30% 試験(小テスト含) 70%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本A		授業の種類 講 義		授業担当者 山浦あゆみ	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 介護福祉専攻科・前期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 看護師という医療職の立場から、現在の地域包括ケアシステムに至るまでの歴史と、介護福祉士の役割と医療職との連携と協働の方法を教授する。					
[授業の目的・ねらい] 保育から介護へ学科が変わるため、まず「介護」を理解しやすいイメージをふくらませることができる。介護の仕事に誇りとやりがいを持つよう、知識・技術の習得と資格取得への意欲が持てるようになる。介護福祉士誕生の社会的背景や社会福祉士及び介護福祉士法の改正による介護福祉士の定義の変更を学び、専門職としての社会的役割を理解できる。介護の独自性や専門性についても考えられるようになる。					
[授業全体の内容の概要] 介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職として、基本となる考え方を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・介護の社会化の背景や、超高齢社会を担う専門職として介護福祉士に求められる社会的役割を理解できる。 ・介護福祉士および介護福祉士法誕生の背景が理解でき、専門職としての義務と責任が持てる。 ・多職種および地域との連携方法を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 講義:介護福祉士の仕事について説明する。－①社会福祉士及び介護福祉士法第2条2項における仕事内容 2. 講義:介護福祉士の仕事について説明する。－②介護福祉士の行う医療的ケアの内容、医師法第17条の解釈と内容① 3. 講義:介護福祉士の仕事について説明する。－③医師法第17条の解釈と内容②、現在のグレーゾーンの範疇とは 4. 講義:介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明する。－①社会福祉士及び介護福祉士法と内容① 5. 講義:介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明する。－②社会福祉士及び介護福祉士法と内容② 6. 講義:介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明する。－③社会福祉士及び介護福祉士法と内容③ 7. 講義:介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明する。－④求められる介護福祉士像について 8. 講義:介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明する。－⑤介護のケアモデルの転換、地域包括ケアとの関連 9. 講義:介護福祉士の成り立ちについて説明する。－①介護の歴史、看護との関係、老人福祉制度による介護の新たな展開 10. 講義:介護福祉士の成り立ちについて説明する。－②社会の変化、女性の社会進出、医療の進歩など 11. 講義:介護福祉士の成り立ちについて説明する。－③介護問題の背景:長寿社会の現状、介護ニーズの変化 12. 講義:介護福祉士の成り立ちについて説明する。－④介護問題の背景:疾病構造の変化、公衆衛生の整備 13. 講義:介護福祉士を取り巻く状況について説明する。－介護問題の背景:高齢者虐待、老老介護、高齢者の自殺 14. 講義:介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明する。－①介護福祉士の専門性と専門職能団体とは 15. 講義:介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明する。－②介護の専門職能団体である介護福祉士会					
[履修に当たっての留意点] 介護福祉士としての心構えや、介護に関する基礎的な知識習得の科目のため、他科目とも連動していくため。講義後には復習をおこなうこと。					
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編)第2巻介護の基本/介護過程 他 (資料授業中に紹介、配布)			[単位認定の方法及び基準] ① 筆記試験(80%) ② 授業態度(10%) ③授業ごとのプレテスト(10%) 等 総合的判断		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本A		授業の種類 講 義		授業担当者 山浦あゆみ
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 介護福祉専攻科・後期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 看護師という医療職の立場から、現在の地域包括ケアシステムに至るまでの歴史と、介護福祉士の役割と医療職との連携と協働の方法を教授する。				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育から介護へ学科が変わるため、まず「介護」を理解しやすいイメージをふくらませることができる。介護の仕事に誇りとやりがいを持てるよう、知識・技術の習得と資格取得への意欲が持てるようになる。介護福祉士誕生の社会的背景や社会福祉士及び介護福祉士法の改正による介護福祉士の定義の変更を学び、専門職としての社会的役割を理解できる。介護の独自性や専門性についても考えられるようになる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職として、基本となる考え方を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の社会化の背景や、超高齢社会を担う専門職として介護福祉士に求められる社会的役割を理解できる。</li> <li>・介護福祉士および介護福祉士法誕生の背景が理解でき、専門職としての義務と責任が持てる。</li> <li>・多職種および地域との連携方法を理解できる。</li> </ul>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>16. 講義:介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明する。－③(倫理とは、倫理判断)</p> <p>17. 講義:介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明する。－④(介護福祉士会の倫理綱領)</p> <p>18. 講義:介護実践における連携について説明する。－①多職種の理解(協働する職種の種類と機能と理解)</p> <p>19. 講義:介護実践における連携について説明する。－②多職種連携(チームアプローチ)の必要性</p> <p>20. 講義:介護実践における連携について説明する。－③多職種連携(チームアプローチ)における介護福祉士の役割</p> <p>21. 講義:介護実践における連携について説明する。－④多職種連携(チームアプローチ)の具体的事例</p> <p>22. 講義:介護実践における連携について説明する。－⑤地域連携(チームアプローチ)地域連携の意義と目的</p> <p>23. 講義:介護実践における連携について説明する。－⑥地域連携(チームアプローチ)地域連携にかかわる機関の機能と役割</p> <p>24. 講義:介護実践における連携について説明する。－⑦地域連携(チームアプローチ)における介護福祉士の役割</p> <p>25. 講義:介護実践における連携について説明する。－⑧地域連携(チームアプローチ)の具体的事例</p> <p>26. 講義:介護を必要とする人の理解について説明する。－① その人らしさ(価値観とは、生活歴)</p> <p>27. 講義:介護を必要とする人の理解について説明する。－② 高齢者の暮らし、生活環境、住まいと環境</p> <p>28. 講義:介護を必要とする人の理解について説明する。－③ 生活習慣と生活様式、生活のリズム</p> <p>29. 講義:介護を必要とする人の理解について説明する。－④ 余暇活動、レクリエーション、家族の役割</p> <p>30.まとめと解説</p>				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>介護福祉士としての心構えや、介護に関する基礎的な知識習得の科目のため、他科目とも連動していくため。講義後には復習をおこなうこと。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編) 2巻介護の基本/介護過程 他 (資料授業中に紹介、配布)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>① 筆記試験(80%) ② 授業態度(10%) ② 授業ごとのプレテスト(10%) 等 総合的判断</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本B		授業の種類 講 義		授業担当者 山浦あゆみ
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 介護福祉専攻科・前期	必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 看護師という医療職の立場から、介護福祉士の役割と医療職との連携と協働の方法を教授する。				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を取り巻く課題等を考えながら、「尊厳の保持」や「自立支援」についての理解を深めることができる。初めての学びでも、誰もが人間としての尊厳が守られ、生活者として主体的に生きることを可能にするための人間尊重を基盤とした「介護観」を持つことができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「尊厳の保持」、「自立支援」についての学習、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活に照らし合わせて考えてゆく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の基本理念としての「自立支援」の考え方と具体的な展開について理解でき、介護実習の場面に繋げることができる。</li> <li>・「個別ケア」、「自己決定」、「生活の質」について、介護実践(支援技術の演習、介護実習、就職後)に活かすことができる。</li> </ul>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義: 尊厳を支える介護について説明する。－①(尊厳と基本的人権について)</li> <li>2. 講義: 尊厳を支える介護について説明する。－②(利用者主体、主体的尊重、選択の尊重について)</li> <li>3. 講義: 尊厳を支える介護について説明する。－③(自己実現、マズローの考え方から)</li> <li>4. 講義: 尊厳を支える介護について説明する。－④(ノーマライゼーションの考え方)</li> <li>5. 講義: 自立支援の理念、自立とはなにかについて説明する。</li> <li>6. 講義: 自立支援の具体的展開について説明する。</li> <li>7. 講義: 個別ケアの考え方について説明する。</li> <li>8. 講義: 個別ケアの展開について説明する。</li> <li>9. 講義: 在宅における介護福祉について説明する。－①(訪問介護、居宅介護)について</li> <li>10. 講義: 在宅における介護福祉について説明する。－②デイサービス(通所介護)・デイケアサービス(通所リハ)</li> <li>11. 講義: 在宅における介護福祉について説明する。－③グループホーム、ショートステイ、小規模多機能サービス他</li> <li>12. 講義: 施設における介護福祉について説明する。－①特別養護老人ホームの目的・介護の視点、ユニットケア</li> <li>13. 講義: 施設における介護福祉について説明する。－②介護老人保健施設および介護療養型医療施設における介護の視点について</li> <li>14. 講義: 施設における介護福祉について説明する。－③障害者福祉施設における介護の視点について</li> <li>15. 講義: 施設における介護福祉について説明する。－④その他の施設における介護の視点について</li> </ol>				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>介護福祉士としての心構えや、介護に関する基礎的な知識習得の科目のため、他科目とも連動していくため。講義後には復習をおこなうこと。</p>				
<p>使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編) 第2巻介護の基本/介護過程 他 (資料授業中に紹介、配布)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>① 筆記試験(80%) ② 授業態度(10%) 授業ごとのプレテスト(10%) 等 総合的判断</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本B	授業の種類 講 義	授業担当者 山浦あゆみ	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 介護福祉専攻科・後期	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 看護師という医療職の立場から、介護福祉士の役割と医療職との連携と協働の方法を教授する。			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を取り巻く課題等を考えながら、「尊厳の保持」や「自立支援」についての理解を深めることができる。初めての学びでも、誰もが人間としての尊厳が守られ、生活者として主体的に生きることを可能にするための人間尊重を基盤とした「介護観」を持つことができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「尊厳の保持」、「自立支援」についての学習、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活に照らし合わせて考えてゆく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の基本理念としての「自立支援」の考え方と具体的な展開について理解でき、介護実習の場面に繋げることができる。</li> <li>・「個別ケア」、「自己決定」、「生活の質」について、介護実践(支援技術の演習、介護実習、就職後)に活かすことができる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>16. 講義:地域連携における介護福祉について説明する。－①地域連携の意義と目的について</p> <p>17. 講義:地域連携における介護福祉について説明する。－②連携におけるインフォーマルサービスについて</p> <p>18. 講義:地域連携における介護福祉について説明する。－③地域連携にかかわる職種について</p> <p>19. 講義:地域連携における介護福祉について説明する。－④地域包括支援センターの機能と役割りについて</p> <p>20. 講義:地域連携における介護福祉について説明する。－⑤市区町村、都道府県の機能と役割り、連携について</p> <p>22. 講義:データを読む①:厚生労働省データ『国民生活基礎調査の概況』について説明する。</p> <p>23. 講義:データを読む②:厚生労働省データ『高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果』について説明する。</p> <p>24. 講義:データを読む③:厚生労働省データ『身体拘束ゼロへの手引き』『介護保険指定基準』について説明する。</p> <p>25. 講義:データを読む④:厚生労働省データ『我が国の人口動態』について説明する。</p> <p>26. 講義:データを読む⑤:内閣府データ『高齢社会白書』について説明する。</p> <p>27. 講義:データを読む⑥:内閣府データ『一人暮らし高齢者に関する意識調査結果』について説明する。</p> <p>28. 講義:データを読む⑦:内閣府データ『高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果』について説明する。</p> <p>29. 講義:データを読む⑧: 育児休暇、介護休暇、EPA</p> <p>30. まとめと解説</p>			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>介護福祉士としての心構えや、介護に関する基礎的な知識習得の科目のため、他科目とも連動していくため。講義後には復習をおこなうこと。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編) 第2巻介護の基本/介護過程 他（資料授業中に紹介、配布）</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>① 筆記試験(80%) ② 授業態度(10%) ② 授業ごとのプレテスト(10%) 等 総合的判断</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本C①		授業の種類 講 義		授業担当者 山浦あゆみ
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 介護福祉専攻科・前期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 医療職の立場から、対象者および介護福祉士自身の健康と安全についての考え方を教授する。				
[授業の目的・ねらい] 「介護を必要とする人」が安全な暮らしができるための安全の確保とリスクマネジメントについて理解ができる。自分自身の健康管理不足や不注意から、介護事故やヒヤリハットにつながることを理解できる。 安全に関する理念や理論、知識を学ぶことで、他科目の生活支援技術・介護過程・介護総合演習・介護実習に反映させることができる。				
[授業全体の内容の概要] 利用者の生活の安全を守る基礎的な知識と役割りを学び、利用者や家族の安全の実現には介護従事者自らの健康管理や安全の保証が必要であることの認識を深め、演習・実習、ひいては職場にて実践できるようになることを目標とする。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・安全の概念を予防・自立の点から理解できる。 ・現場における緊急対応の方法、災害時の役割りを認識することができる。 ・自らの安全や健康管理を守るための知識を身に付ける。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 講義:介護における安全の確保とリスクマネジメントについて説明する。－①介護領域におけるリスクマネジメント（ヒヤリ・ハット、ハインリッヒの法則、フェールセーフの考え方） 2. 講義:介護における安全の確保とリスクマネジメントについて説明する。－②在宅における介護事故 3. 講義:介護における安全の確保とリスクマネジメントについて説明する。－③感染症の予防と管理(基礎知識) 4. 演習:グループで感染症予防のための演習を行う。(手袋・マスクの装着、ガウンの装着、滅菌撮子と綿球の取り扱い) 5. 講義:介護における安全の確保とリスクマネジメントについて説明する。－④感染症の予防と管理(各論) 6.講義:介護事故について説明する。(事例を提示しながら説明する) 7.講義:介護事故予防と安心安全な介護について説明する。(事例を提示しながら説明する) 8. 講義:介護従事者の安全について説明する。－①介護従事者の健康問題(腰痛)について、新しい腰痛対策 9. 講義:介護従事者の安全について説明する。－②体の健康管理(感染、疲労、頸肩腕障害、深夜業)について 10. 講義:介護従事者の安全について説明する。－③心の健康管理(ストレス、うつ病、看取りにかかわる介護職員の心のケア) 11.講義:介護従事者の安全について説明する。－④労働の環境(快適な職場の重要性、労働環境、労働基準法、安全衛生法) 12.講義:身体拘束と虐待について説明する。－①身体拘束について 13.講義:身体拘束と虐待について説明する。－②高齢者虐待の現状と課題 14. 講義:身体拘束と虐待について説明する。－③虐待を起さないために 15.まとめと解説				
[履修に当たっての留意点] 介護福祉士としての心構えや、介護に関する基礎的な知識習得の科目のため、他科目とも連動していくため。講義後には復習をおこなうこと。				
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編)第2巻介護の基本/介護過程 他(資料紹介、配布)		[単位認定の方法及び基準] ① 筆記試験(80%) ② 授業態度(10%) ③授業ごとのプレテスト(10%) 等 総合的判断		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 介護の基本C②		授業の種類 演 習		授業担当者 上田 勝己	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)                  介護認定審査会委員としての実務経験をもとに、介護保険制度のしくみや要介護認定に至るまでの流れを、演習やグループ活動を通して学べるようにする。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]                  介護福祉士として、他職種との協働やケアマネジメントなどのしくみを理解し、介護保険制度下における具体的な事例について支援を展開できる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]                  介護を必要とする人の理解を深め、人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際をグループワークなどを通して考える。常に、生活者としての観点から、介護福祉士としての知識を習得していくことを目標とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]                  介護保険制度を理解し、地域福祉に寄与できる専門性が身につく。介護福祉士として他職種との良好な連携を保つためにも、学習成果をプレゼンテーションできるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険制度のあらましを概説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>2. 介護を必要とする人への理解に対する姿勢について説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>3. 介護サービス提供の特性と流れについて解説する。</li> <li>4. 「介護保険制度を理解しよう」(グループワークの成果発表の準備①)</li> <li>5. 「介護保険制度を理解しよう」(グループワークの成果発表の準備②)</li> <li>6. 「介護保険制度を理解しよう」(グループワークの成果発表の準備③)</li> <li>7. 「介護保険制度を理解しよう」(パワーポイントを活用しグループ発表①)</li> <li>8. 「介護保険制度を理解しよう」(パワーポイントを活用しグループ発表②)</li> <li>9. 「介護保険制度を理解しよう」(パワーポイントを活用しグループ発表③)</li> <li>10. 「介護保険制度を理解しよう」(総括、講義、記録映像を活用し、復習を図る)</li> <li>11. 職務の理解について説明する(職種編…講義・動画教材視聴)</li> <li>12. 職務の理解について説明する(種別編…講義・動画教材視聴)</li> <li>13. 介護保険制度に基づく介護サービス提供のまとめ①(講義、動画教材視聴、小テスト)</li> <li>14. 介護保険制度に基づく介護サービス提供のまとめ②(講義、動画教材視聴、小テスト)</li> <li>15. 全体総括、定期試験(講義、動画教材視聴)</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]                  授業はグループワークが中心になるため、活動成果を上げるためにも毎回の出席が求められる。学びの共有化を図りながら、介護保険制度の理解を深めていきたい。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]                  介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編)                  第2巻 介護の基本/介護過程                  他(資料授業中に紹介、配布)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]                  (試験やレポートの評価基準など)                  ①グループワーク成果50%②課題提出物30%③授業態度20%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) コミュニケーション技術		授業の種類 講 義		授業担当者 齋藤 至孝	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科・前期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 知的障害者施設(就労支援施設)で生活支援員として7年、介護老人保健施設の支援相談員として8年の実務経験を活かし、実際の現場でのエピソードを交えながら、将来介護職についたときに役立つ内容の講義を行い、各自のイメージアップにつなげる。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 介護職という対人援助技術者として、コミュニケーション技法の意義・効果について理解する。 また、その技術を活用し、利用者・家族及び関係する多職種等とのコミュニケーションが実践できる力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] コミュニケーションの基本的理解、自己覚知、傾聴、受容、共感を踏まえ、テキスト内外の事例や演習、動画視聴等を通じ、利用者・家族とのコミュニケーション、場面を想定したコミュニケーション技法を、介護の専門職を意識して学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護福祉士取得を前提とし、コミュニケーションの各技法を理解し、実践できるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「介護におけるコミュニケーションの基礎・目的」について解説する【講義】</li> <li>2 「介護におけるコミュニケーションのしくみ」について解説する【講義】</li> <li>3 「介護におけるコミュニケーションの実際」について解説する【講義】</li> <li>4 「介護におけるグループでのコミュニケーション」について解説する【講義】</li> <li>5 「認知症の人とのコミュニケーション」について解説する【講義】</li> <li>6 「視覚障害のある人とのコミュニケーション」について解説する【講義】</li> <li>7 「聴覚障害のある人とのコミュニケーション」について解説する【講義】</li> <li>8 「失語症の人とのコミュニケーション」について解説する【講義】</li> <li>9 「精神障害のある人とのコミュニケーション」について解説する【講義】</li> <li>10 「知的障害のある人とのコミュニケーション」について解説する【講義】</li> <li>11 「高次脳機能障害のある人とのコミュニケーション」について解説する【講義】</li> <li>12 「福祉用具を用いたコミュニケーション」について解説する【講義】</li> <li>13 「多職種連携に必要なコミュニケーション・記録」について解説する【講義】</li> <li>14 「多職種連携に必要なコミュニケーション、報告・会議」について解説する【講義】</li> <li>15 前期のまとめ</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点] 毎回授業で行うテキストの範囲を読んでおくことを前提とする。授業で行うテキストの範囲は事前に知らせる。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座13 「認知症の理解」 (その他、適宜資料を配布・紹介)			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度30% 試験(小テスト含)70%		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) コミュニケーション技術		授業の種類 講 義		授業担当者 齋藤 至孝	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科・後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）          知的障害者施設(就労支援施設)で生活支援員として7年、介護老人保健施設の支援相談員として8年の実務経験を活かし、実際の現場でのエピソードを交えながら、将来介護職についたときに役立つ内容の講義や演習を行い、各自のイメージアップにつなげる。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]          介護職という対人援助技術者として、コミュニケーション技法の意義・効果について理解する。          また、その技術を活用し、利用者・家族及び関係する多職種等とのコミュニケーションが実践できる力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          コミュニケーションの基本的理解、自己覚知、傾聴、受容、共感を踏まえ、テキスト内外の事例や演習、動画視聴等を通じ、利用者・家族とのコミュニケーション、場面を想定したコミュニケーション技法を、介護の専門職を意識して学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]          介護福祉士取得を前提とし、コミュニケーションの各技法を理解し、実践できるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「話を聴く技法」について解説する【講義】</li> <li>2 「利用者の感情表現を察する技法」について解説する【講義】</li> <li>3 「利用者の納得と同意を得る技法」について解説する【講義】</li> <li>4 「質問の技法」について解説する【講義】</li> <li>5 「相談・助言・指導の技法」について解説する【講義】</li> <li>6 「利用者の意欲を引き出す技法」について解説する【講義】</li> <li>7 「利用者と家族の意向を調整する技法」について解説する【講義】</li> <li>8 「複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法」について解説する【講義】</li> <li>9 「コミュニケーション障害とその原因」について解説する【講義】</li> <li>10 「コミュニケーション障害を理解する視点」について解説する【講義】</li> <li>11 「コミュニケーション障害のある利用者を支えるコミュニケーション技術」について解説する【講義】</li> <li>12 「コミュニケーション障害の状態の観察・情報収集する技術」について解説する【講義】</li> <li>13 「コミュニケーション障害の傾向を分析・解釈・アセスメントする技術」について解説する【講義】</li> <li>14 「コミュニケーションの方法を立案・実践する技術」について解説する【講義】</li> <li>15 後期のまとめ</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]          毎回授業で行うテキストの範囲を読んでおくことを前提とする。授業で行うテキストの範囲は事前に知らせる。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]          最新・介護福祉士養成講座13          「認知症の理解」          (その他, 適宜資料を配布・紹介)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]          出席・授業態度30%          試験(小テスト含)70%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術A		授業の種類 演習	授業担当者 平石 仁恵
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (4)	配当学年・時期 介護福祉専攻科 前期	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>教育機関からの要請により、主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っている。また、障がい者の地域生活支援を担当していた経験から、食を通じての健康保持、食生活支援のあり方を考えたい。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>高齢者には長い人生の中で培ってきた食習慣や嗜好、価値観などがある。障がい者には障害の違いにより食への対応の違いが求められる。それらを尊重した支援をするための基礎的な知識と調理技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>高齢者や障がい者にとっての様々な生活場面を想定し、講義と講義内容に呼応した料理を調理する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障がい者の調理支援に関する基礎的知識を理解することができる。</li> <li>・対象者の特性に合わせた献立作成、食材選定、調理法の決定ができる。</li> <li>・嚥下食やコントロール食の調理ができる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 講義の進め方、課題、評価方法について説明する(講義)。</li> <li>2. 調理支援のための基礎知識について解説する(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。</li> <li>3. 調理支援と家庭生活について解説する。実習レシピ解説(講義)。生徒によるプレゼン(発表)</li> <li>4. 春のおやつ、調理と試食(実習)。</li> <li>5. 調理支援と物理的環境について解説する(講義)。(講義)。生徒プレゼン(発表)</li> <li>6. 軟菜食の調理と試食(実習)。</li> <li>7. 調理の基本について解説する。(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。</li> <li>8. きざみ食の調理と試食(実習)。</li> <li>9. 介護現場での食生活支援と課題について解説する(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。</li> <li>10. 夏のおやつ、調理と試食(実習)。</li> <li>11. 介護食の調理について解説する。実習レシピ解説(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。</li> <li>12. ゼリー食の調理と試食(実習)。</li> <li>13. 和食調理の基本について解説する(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。</li> <li>14. 和食献立の調理と試食(実習)。</li> <li>15. まとめと解説。</li> </ol>			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。</li> <li>・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することを勧める。</li> </ul>			
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援のための調理実習」 田崎 裕美 他、建帛社		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 50% 課題発表・実習態度 50%	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術A		授業の種類 演習	授業担当者 平石 仁恵
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (4)	配当学年・時期 介護福祉専攻科 後期	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>教育機関からの要請により、主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っている。また、障がい者の地域生活支援を担当していた経験から、食を通じての健康保持、食生活支援のあり方を考えたい。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>高齢者には長い人生の中で培ってきた食習慣や嗜好、価値観などがある。障がい者には障害の違いにより食への対応に違いが求められる。それらを尊重した支援をするための基礎的な知識と調理技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>高齢者や障がい者にとっての様々な生活場面を想定し、講義と講義内容に呼応した料理を調理する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障がい者の調理支援に関する基礎的知識を理解することができる。</li> <li>・対象者の特性に合わせた献立作成、食材選定、調理法の決定ができる。</li> <li>・嚥下食やコントロール食の調理ができる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洋風調理の基本について解説する。実習レシピの解説(講義)。</li> <li>2. 洋風献立の調理と試食(実習)。</li> <li>3. 在宅介護、施設介護における調理活動の支援について解説する。実習レシピの解説(講義)。</li> <li>4. 洋風献立の応用、調理と試食(実習)。</li> <li>5. 障害別にみる調理活動の支援について解説する。実習レシピの解説(講義)。</li> <li>6. 秋のおやつ、調理と試食(実習)。</li> <li>7. 家庭にある食材を使った調理について解説する。実習レシピ作成(演習)。</li> <li>8. フードロス減らす料理、調理と試食(実習)。</li> <li>9. 高齢者の疾病と調理について解説する。実習レシピの解説(講義)。</li> <li>10. 高齢者向けの献立、調理と試食(実習)</li> <li>11. コントロール食について解説する。実習レシピの解説(講義)。</li> <li>12. カルシウム強化食の調理と試食(実習)。</li> <li>13. 郷土食について解説する。実習レシピの解説(講義)。</li> <li>14. 冬のおやつ、調理と試食(実習)。</li> <li>15. まとめと解説。</li> </ol>			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。</li> <li>・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することを勧める。</li> </ul>			
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援のための調理実習」 田崎 裕美 他、建帛社		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 50% 課題発表・実習態度 50%	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術B	授業の種類 演 習	授業担当者 篠塚 しづか	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科・通年	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>利用者の人生の見守りから看護までの看取りまでの介護場面に適切に対応するためには専門的な知識技術の習得は勿論、人としてのこころの問題も踏まえた実践力のある介護福祉士の養成が急務である。本講義では科学的専門的な講義と実験、また、文学、古典、儒教、童話、小説、報徳夜話、心学など学生の精神の研鑽に役に立つ内容を組み入れた。利用者のこころに沿った生活支援技術を祐得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自立に向けた家事の介助、家庭生活の理解、家事の意識目的、被服生活の理解、洗濯技術、洗剤の性能実験、裁縫支援、寝具の衛生とダニ、カビの対策、被服衛生学的検討、家庭経営と消費者問題について</li> <li>2. 自立に向けた居住環境の整備、安全で快適な住居、環境問題への生活対応、室内清掃とハウスクリーニングの実際、住生活衛生管理について</li> </ol> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. あらゆる介護場面での家事の介助の知識、技術を習得する。</li> <li>2. 利用者の居住環境を的確に把握し、自立支援に資する種々のサービスを提供できる能力を養う。</li> <li>3. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる、思いやりのある温かな人柄等倫理感を養う。</li> </ol> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 石門心学齋家論にみる家庭生活、生活支援技術の意義と目的について解説する。(講義)</li> <li>2. 家庭生活に関わる基礎知識 家庭生活に人々が望むこと。結婚を考える。 結婚の形態 少子化 扶養 共働き家庭 相続などについて解説する。(講義)</li> <li>3. 家事生活の意義、目的 要介護者と介護者のいる家庭を支える家事の重要性 衣生活の役割と要介護者の健康を守る機能と素材について解説する。(講義)</li> <li>4. 各種被服の素材 繊維の種類と特徴 天然繊維の性質と洗濯上の注意点 管理について解説する。(講義)</li> <li>5. 化学繊維の性質と洗濯上の注意点 再生繊維の素晴らしさと井上靖氷壁にみるナイロン繊維 世界初堀江氏太平洋横断に貢献した天才繊維ポリエステルについて解説する(講義)</li> <li>6. 古代の洗濯の目的が教える洗濯のこころ 古事記に見る洗濯 家事道を概説する。洗濯洗剤について解説する。(講義)</li> <li>7. 洗剤の発達過程について解説する。 古代の洗剤からキューブ型液体洗剤まで (講義)</li> <li>8. 濯の諸条件 仕分けの重要性 基本の洗濯の方法 乾燥 仕上げ法 アイロンかけについて説明する。(講義. 実習 )</li> <li>9. 被服の汚れと肌着素材の重要性を各自不感蒸泄の計測実験をして説明する。(講義. 実験 )</li> <li>10. 基本的な裁縫技術を習得させる。 作品作成を指導する。(実習)</li> <li>11. 住まいの役割と機能 生活行為と生活空間 安全に暮らすための環境 災害に対する備えについて解説する。(講義)</li> <li>12. 安全で快適な生活環境 快適な室内環境とはどんなものかを室内微気候を計測実験して説明する。(講義. 実験)</li> <li>13. 暮らしと環境問題 住まいの管理と諸問題 光彩・騒音・換気・ダニ・カビ・化学物質への対応を解説する(講義)</li> <li>14. 寝具の衛生管理 太陽エネルギーの衣生活への有効利用と殺菌効果 寝具とダニについて教員の実験データをもとに解説する。(講義)</li> <li>15. まとめと解説 (講義)</li> </ol>			

16. 酵素入り洗剤の洗浄効果と抗菌剤入り新洗剤の洗浄比較実験をして汚れの種類で洗剤を選択することの重要性を知らしめる。(講義. 実験)
17. 高齢者、障害者等の着衣着火の危険についてその実情を教員の実験データを示し講義する。  
また、表面フラッシュ現象の恐怖、化学繊維の燃焼時発生の有毒ガス、燃え方の実験をする。
18. 衣服の選択、健康衣生活のためのサイズ選択を学ぶ (講義)  
色彩の心理 着脱の工夫 靴の被服衛生学的計測の重要性を実習を通して解説する(実験)
19. 洗濯薬剤の上手な使用法 (講義)  
漂白剤、蛍光増白剤としみ抜き法について実習をとおしてしみ抜き技術を習得させる(実習)
20. 入浴の介助と入浴剤の効果 (講義)  
高齢者入浴は身体の清潔と健康に重要な意味を持つ、民間薬草、市販入浴剤までを解説する。
21. 皮膚の衛生保持 被服による衛生保持 物理的刺激による皮膚炎の予防 (講義)  
静電気予防と柔軟仕上げ剤の効果、各種柔軟仕上げ剤の衣生活への貢献について解説する。
22. 高齢者の身体機能低下と被服 (講義. 実験)  
紙おむつの性能と利用方法 高分子吸収材ポリマーの吸水実験と性能理解を解説する。
23. 高齢者の身体機能低下と被服 (講義. 実験)  
紙おむつの性能と利用方法 高分子吸収材ポリマーの吸水実験と性能理解を解説する。
24. 住生活での介助  
室内の清掃の方法、ハウスクリーニングのこころを踏まえた講義とする。(講義)
25. 利用者さん宅での掃除の実際を指導する 室内清掃のあり方と環境をした配慮した魔法の重曹ホイップクリーム  
の作り方と使用法を習得させる。(講義. 実習)
26. 利用者さんの買い物介助  
家庭経済と家計管理支援の考え方を二宮尊徳報徳夜話を用いて解説する。(講義).
27. 高齢者を取り巻く経済生活  
詐欺、悪徳商法、貯蓄、年金、医療費などの問題を解説する(講義)
28. 被服の管理 日常の手入れと保管 衣替えと防虫法について解説する。  
衣類と寝具の衛生管理の方法を解説する。(講義. 実習)
29. 日本古来の防虫法、防虫剤を解説し、現在の衣生活のアレルギー被害に対応させるべく詳しい利用法を解説  
する。(講義)
30. 年間を通した生活支援技術について総括する。(講義)

[履修に当たっての留意点]

講義内容は実験実習を多くした。介護現場の実践に役立つ為しっかりメモとりノートを作る。

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成テキスト3『生活支援技術 I・II』

[単位認定の方法及び基準]

試験70%・レポート20%提出物10%

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術C		授業の種類 演 習		授業担当者 五十嵐 将志	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 前期	必修・選択 必 修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>病院で理学療法士としてリハビリテーションを提供しています。臨床現場では対象に対して【ただ日常生活動作の介助や支援】をするのではなく、適切なアセスメント(身体的・精神的・社会的)から対象の立場を理解し、寄り添ったケアを実践することが求められます。当授業では現場で働く経験を活かし、対象者を想定した演習を通して、【介護方法を理解する】だけでなく、一人ひとりに合わせて自立支援を行うための知識や技術、考える力を教育していきます。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>リハビリテーション理論をもとに、対象者が【生存して活動する:生きる】ことだけでなく、【社会の中でその人らしく暮らす】ための動作や生活環境を支援し、生活の楽しさや生活上で生じている支障の解決について対象者と分かち合うことができることを目的とする。</p>					
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>利用者が置かれている生活機能を把握・分析し、毎日決められた日常生活動作を支援するだけでなく、対象者に合わせた趣味・社会活動までを踏まえた包括的な支援が行えるような、考え方を構築する。</p>					
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①利用者の生活活動を残存能力・潜在能力の視点で把握し、各々の生活場面における支援技術を理解できる。 ②ICFの概念に基づいたアセスメントを理解することができる。 ③腰痛予防、ボディーメカニクスなど、セーフティー・マネージメントを習得できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション / 講義</li> <li>2. リハビリテーションの理念 / 講義</li> <li>3. リハビリテーションの領域と役割、関わる職種・プロセス / 講義</li> <li>4. 介護保険の流れ・ケアマネジメント / 講義</li> <li>5. 体位変換・移乗 / 講義、グループワーク、実技</li> <li>6. リハビリテーション介護 / 講義</li> <li>7. 生活不活発病(廃用症候群)の理解 / 講義</li> <li>8. 生活不活発病(廃用症候群)を予防する介護技術 / 講義、実技</li> <li>9. 自立支援に向けて①(ボディメカニクス・ROM) / 講義</li> <li>10. 自立支援に向けて②(腰痛予防) / 講義</li> <li>11. 社会的リハビリテーション・行政の役割 / 講義</li> <li>12. 社会的リハビリテーション・地域リハビリテーション / 講義</li> <li>13. 住宅・福祉用具に関する知識① / 講義</li> <li>14. 住宅・福祉用具に関する知識② / 講義</li> <li>15. まとめと解説</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>授業の中で確認テストを行うので確認テストの内容を復習するようにしてください。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>リハビリテーション論、メヂカルフレンド社 編)澤村誠志:最新介護福祉全書別巻2 コミュニケーション技術/生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 編)日本介護福祉士養成施設協会</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>定期試験・受講態度により評価する  基準:試験50% ・ 受講態度50%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術C		授業の種類 演 習		授業担当者 五十嵐 将志	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 後期	必修・選択 必 修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）          病院で理学療法士としてリハビリテーションを提供しています。臨床現場では対象に対して【ただ日常生活動作の介助や支援】をするのではなく、適切なアセスメント(身体的・精神的・社会的)から対象の立場を理解し、寄り添ったケアを実践することが求められます。当授業では現場で働く経験を活かし、対象者を想定した演習を通して、【介護方法を理解する】だけでなく、一人ひとりに合わせて自立支援を行うための知識や技術、考える力を教育していきます。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]          リハビリテーション理論をもとに、対象者が【生存して活動する:生きる】ことだけでなく、【社会の中でその人らしく暮らす】ための動作や生活環境を支援し、生活の楽しさや生活上で生じている支障の解決について対象者と分かち合うことができることを目的とする。</p>					
<p>[授業全体の内容の概要]          利用者が置かれている生活機能を把握・分析し、毎日決められた日常生活動作を支援するだけでなく、対象者に合わせた趣味・社会活動までを踏まえた包括的な支援が行えるような、考え方を構築する。</p>					
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]          ① 利用者の生活活動を残存能力・潜在能力の視点で把握し、各々の生活場面における支援技術を実施できる。          ② ICFの概念に基づいたアセスメントを活用することができる。          ③ 各障害特性に応じた解除方法を実施することができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]          コマ数          1. 生活とADL / 講義          2. 障害別リハビリテーション 脳卒中 / 講義          3. 障害別リハビリテーション 呼吸・循環器障害 / 講義          4. 障害別リハビリテーション 脊髄損傷 / 講義          5. 障害別リハビリテーション 関節リウマチ / 講義          6. 障害別リハビリテーション 変形性関節症 / 講義          7. 障害別リハビリテーション 大腿骨頸部骨折 / 講義          8. 障害別リハビリテーション パーキンソン病 / 講義          9. 障害別リハビリテーション 老化 / 講義          10. 障害別リハビリテーション 認知機能低下 / 講義          11. 障害別リハビリテーション 精神障害・発達障害 / 講義          12. 障害別リハビリテーション がん / 講義          13. 障害別リハビリテーション 内部疾患 / 講義          14. 前期・後期の振り返り          15. まとめと対策</p>					
<p>[履修に当たっての留意点]          授業の中で確認テストを行うので確認テストの内容を復習するようにしてください。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]          リハビリテーション論、メヂカルフレンド社          編)澤村誠志:最新介護福祉全書別巻2          コミュニケーション技術/生活支援技術Ⅰ・Ⅱ          編)日本介護福祉士養成施設協会</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]          定期試験・受講態度により評価する          基準:試験50% ・ 受講態度50%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術D		授業の種類 演 習		授業担当者 上田 勝己	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 前期	必修・選択 必 修		
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>介護福祉士は常に安全で安楽な介護技術の展開を求められている。特別養護老人ホームにおける実務経験からもその展開能力は不可欠であるとする。現場で行われている自立支援への取り組みをもとに、根拠ある介護技術が習得できる授業としたい。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>移動における介護技術は、他の介護技術とも連動して行われることが多く、介護技術の中でも基本となる技術である。介護者として必要な安全で安楽な技術(スキル)を習得し、介護現場で必要とされる実践能力を高める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>自立支援に向けた実践方法の習得のため、基礎的な技術と応用的な技術の根拠を学ぶ。また、講義においても、演習で実際的に表現できるように、視聴覚教材を効果的に活用していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>移動介助を必要とする人に対し、様々な場面においてニーズを適確に把握し、根拠をもって介護技術を選択できるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとガイダンス:演習(介護の理解、身体理解、ボディメカニクスと体位)</li> <li>2. 安全で心地よい生活の場①:演習(寝具とは、清潔で心地よい寝床環境、ベッドメイキング)</li> <li>3. 安全で心地よい生活の場②:演習(寝具とは、清潔で心地よい寝床環境、ベッドメイキング)</li> <li>4. ICFに基づく「移動」とその意義と目的を考える(講義、動画教材視聴)</li> <li>5. 安全で気兼ねなく動けることを支える介護とは何か?を考える(演習、グループワーク)</li> <li>6. 体位の理解と体位変換①:演習(枕の移動、水平移動)</li> <li>7. 体位の理解と体位変換②:演習(上方移動)</li> <li>8. 体位の理解と体位変換③:演習(仰臥位から側臥位)</li> <li>9. 体位の理解と体位変換④:演習(側臥位から端座位)</li> <li>10. 体位の理解と体位変換⑤:演習(端座位から車椅子などへの移乗)</li> <li>11. 「車椅子での移動」を支える介護①:演習(車椅子の基本操作)</li> <li>12. 「車椅子での移動」を支える介護②:演習(屋内での車椅子操作)</li> <li>13. 安全な「歩行」を支える介護①:演習(杖の種類、杖の使用法と援助)校内演習</li> <li>14. 安楽な体位の保持:演習(安楽物品の種類と使用方法)</li> <li>15. 「移動」を支える介護技術(徒手搬送の方法、ストレッチャー移乗と搬送、バスタオル移乗)</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>介護関係において、お互いに負担のない技術の習得を目指すため、基本的な日常において、食事や睡眠などには十分注意をして欲しい。実践演習を通して、援助者としての健康管理面も考えていきたい。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編) 第3巻 コミュニケーション技術/生活支援技術 I・II 他(資料授業中に紹介、配布)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>①筆記試験30%②実技試験30%③提出物20% ④授業態度20%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術D		授業の種類 演 習		授業担当者 上田 勝己	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 後期	必修・選択 必 修		
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)                  排泄援助は人間の尊厳に深く関わっている。特別養護老人ホームにおける介護福祉士としての実務経験は、そのことへの深い理解につながっている。その実践事例をもとに、体験学習的に体感できる授業としたい。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]                  排泄に関しての対象者のプライバシー、尊厳を考えられるための基礎的な知識や技術を身につける。障害や高齢により、自力で排泄行為ができなくなった人たちに対する「排泄支援の方法」を学ぶ。</p>					
<p>[授業全体の内容の概要]                  排泄行為への援助技術習得のみに止まらず、心理面にも配慮した「排泄の自立支援」について考え、その技術を身につけていく。</p>					
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]                  個々の障害の程度に応じた適切な介護技術の習得と共に、人の尊厳を重要視した対応能力を身につける。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]                  コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 「車椅子での移動」を支える介護③(屋外での車椅子操作)校外演習</li> <li>17. 安全な「歩行」を支える介護②(屋外での杖歩行の介助)校外演習</li> <li>18. リネン交換①:シーツのみの交換、枕カバーの交換(手技、手順を習得できるように、実演、解説する)</li> <li>19. リネン交換②:ラバーシーツ、横シーツを含めたシーツの交換(実演、解説する)</li> <li>20. オリエンテーション:排泄の意義と目的、排泄に関する利用者のアセスメント</li> <li>21. 気持ち良い排泄を支える介護①(排泄に対して抱きやすいイメージについて概説する)</li> <li>22. 気持ち良い排泄を支える介護②(プライバシーに配慮した排泄介助を実演する)</li> <li>23. 安全・的確な排泄の介助の技法①ポータブルトイレの介助(実演を交えて解説する)</li> <li>24. 安全・的確な排泄の介助の技法②オムツの介助方法1(紙オムツ・パッドの援助)</li> <li>25. 安全・的確な排泄の介助の技法③オムツの介助方法2(布オムツの援助)</li> <li>26. 安全・的確な排泄の介助の技法④オムツの介助方法3(オムツ交換)</li> <li>27. 安全・的確な排泄の介助の技法⑤(便器・尿器・安楽尿器の使用を実演、解説する)</li> <li>28. 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点を総括する(講義、動画教材視聴)</li> <li>29. 他職種の役割と協働について理解を深める(講義、動画教材視聴)</li> <li>30. 全体総括</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]                  身体介護の演習が中心であるため、演習のための装いはしっかりと整えたい。また、毎回の授業は連動しているため、一コマ一コマの授業にテーマを持って取り組むことが大切である。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]                  介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編)                  第3巻 コミュニケーション技術/生活支援技術 I・II                  他(資料授業中に紹介、配布)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]                  (試験やレポートの評価基準など)                  ①筆記試験30%②実技試験30%③提出物20%                  ④授業態度20%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術E		授業の種類 演 習		授業担当者 上田 勝己	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 前期	必修・選択 必 修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）          特別養護老人ホームにおける介護福祉士としての実務経験からも、快適な食事支援、適切な食事介助の技法を身につけることは要介護者のQOLに深く関わってくるということを感じた。口腔ケアの重要性とともに、介護福祉士の専門性としてその役割を考える授業としたい。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]          利用者にとって「より良い食事とは何か」について考え、食事に関する基礎的な知識を学ぶ。利用者の心身状態のレベルを理解し、自立に向けた適切な食事介助の技法について、利用者との視点から考え、効果的な介助技法を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          栄養と食事の基礎知識について学習するとともに、身体機能低下や咀嚼・嚥下障害、感覚障害、認知障害等の食事介護を必要とする利用者の状態に応じた適切な食事介助の技法を学ぶ。          また、口腔ケアについての理解を深め、その技術を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]          基本的、応用的な介護方法と口腔の清潔の意義、手法についての理解ができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「自立に向けた食事の介護・口腔の清潔の介護」のオリエンテーション</li> <li>2. 介護を必要とする利用者の食事の意義と介護者の役割を解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>3. 食事に関する利用者のアセスメントについての留意点を説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>4. 食事摂取の基本的な知識について解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>5. 誤嚥の予防と対応について説明する(講義、動画教材視聴、演習)</li> <li>6. 自力摂取可能な利用者への支援について解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>7. 運動機能が低下している利用者の食事介助①(飲水介助)(講義、演習)</li> <li>8. 運動機能が低下している利用者の食事介助②(食事介助)(講義、演習)</li> <li>9. 運動機能が低下している利用者の食事介助③(食事介助)(講義、演習)</li> <li>10. 認知症高齢者に対する食事介護の留意点を解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>11. 視覚に障害を持つ利用者への食事介護に関する留意点を解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>12. 健康状態に応じた食物・栄養摂取方法とケアについて解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>13. 口腔の清潔①口腔ケアの演習</li> <li>14. 口腔の清潔②口腔ケアの演習</li> <li>15. 前期総括</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]          演習にあたっては、様々な状況を想定した演習を考えている。実践の場面で生きるような技術の習得が目標であるため、毎回の出席を望みたい。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]          介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編)          第3巻 コミュニケーション技術/生活支援技術 I・II          他(資料授業中に紹介、配布)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]          (試験やレポートの評価基準など)          ①筆記試験30% ②実技評価30% ③提出物20%          ④授業態度20%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術E		授業の種類 演 習		授業担当者 上田 勝己	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>入浴を始めとする清潔面への支援は、日々の生活意欲を引き出す効果も期待できる。特別養護老人ホームでの介護福祉士としての実務経験からも、要介護者にとっては心地の良い場面が、正しい介護技術の展開や配慮に欠けることがあれば苦痛に変わってしまうことを感じた。実践演習を通して、その理解を深められる授業としたい。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害や高齢により、自力で入浴ができなくなった人に対する「入浴」や「清潔保持」の介助方法について学習する。ただ単に清潔を保持するための援助ではなく、利用者が爽快感や安楽を感じることでできる援助とは何かを考える。</p>					
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害や高齢により思うように入浴ができない状況にある人に対して、介護者はどのような支援を行うべきか、清潔保持の必要性やその援助方法を学ぶ。</p>					
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>安全に配慮した介助方法を理解し、実践能力を身につけることにより、利用者の状態や状況に応じた入浴の支援ができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 「清潔の意義と目的」のオリエンテーション</li> <li>17. 入浴に関する利用者のアセスメントについての留意点を解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>18. 爽快感・安楽を支える介護を考える(講義、動画教材視聴)</li> <li>19. 利用者の状況・状態に応じた介助の留意点を解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>20. 安全で安楽な入浴・清潔保持の介助方法①(入浴介助と洗髪)(演習)</li> <li>21. 安全で安楽な入浴・清潔保持の介助方法②(入浴介助と洗髪)(演習)</li> <li>22. 安全で安楽な入浴・清潔保持の介助方法③(手浴、足浴)</li> <li>23. 「衣生活の意義と目的」のオリエンテーション</li> <li>24. 衣生活に関する利用者のアセスメントについての留意点を説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>25. 安全で快適な衣生活への介助①(前開き衣類交換の介助方法)(演習)</li> <li>26. 安全で快適な衣生活への介助②(かぶり式の衣類交換の介助方法)(演習)</li> <li>27. 安全で快適な衣生活への介助③(和式寝衣の交換)(演習)</li> <li>28. 「車椅子での移動」を支える介護①(屋内での車椅子操作:徒手搬送)(演習)</li> <li>29. 「車椅子での移動」を支える介護②(屋外での車椅子操作:徒手搬送)(演習)</li> <li>30. 全体総括</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>入浴、着脱演習では援助者側の健康管理も重要となってくるため、日々留意する必要がある。この貴重な体験演習を介護福祉士としてのスキルとして身につけられることを望みたい。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編 第3巻 コミュニケーション技術/生活支援技術 I・II 他(資料授業中に紹介、配布)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>①筆記試験30% ②実技評価30% ③提出物20% ④授業態度20%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 生活支援技術F		授業の種類 講 義		授業担当者 上田 勝己
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 前期	必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 特別養護老人ホームにおける介護福祉士としての実務経験においては、数々の看取りの場面を経験した。終末期では要介護者のみならず家族へのケアも介護福祉士にとって大切な役割である。実際の事例も交えながらその心構えを学び合える授業としたい。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい] ①活動と休息、睡眠の必要性から、「良い睡眠の条件」を考える。②ICFの視点に基づく「その人らしさ」や心身状況に応じた睡眠介助のあり方、③尊厳保持を貫く終末介護のあり方を、個々の感性、人間観、共感を土台に考えを深め、技術に習熟し、専門職としての介護能力を高める。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要] 人間として当たり前である安楽な睡眠の願いが果たされない高齢者や障害者の生理、心理を十分に理解し環境整備やベッドメイキングを学び、利用者の心身状況や個別性に応じた臨機応変な安眠のための介護の力を養う。また、終末期への理解を深め、介護福祉士の役割を自覚する。</p>				
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 睡眠の重要性の理解とその環境づくりへの工夫ができる。終末期における介護技術の習得と介護福祉士としての役割が自覚できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「睡眠の意義、目的と個別性」のオリエンテーション(講義、動画教材視聴)</li> <li>2. 睡眠のアセスメントと安眠への介護について解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>3. 睡眠の理解について(講義、動画教材視聴)</li> <li>4. 睡眠時の身体的変化について説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>5. 睡眠を阻害する因子とは(環境的因子、身体的因子、精神的因子)(講義、動画教材視聴)</li> <li>6. 安眠への援助方法について説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>7. 喪失体験の悲しみを考える(動画教材視聴、グループディスカッション)</li> <li>8. 死にゆく人の理解(講義、グループディスカッション)</li> <li>9. 延命治療に対するホスピスケア、訪問看護等の歴史について解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>10. 終末期の心身状況、QOL高める身体生活援助を考える(講義、動画教材視聴)</li> <li>11. 終末期の利用者と家族の心理のサポート(講義、動画教材視聴)</li> <li>12. 終末期の利用者と家族とのコミュニケーション(講義、動画教材視聴)</li> <li>13. 死亡時のケア(エンゼルケアと御見送り)を考える(講義、動画教材視聴)</li> <li>14. 在宅ターミナルケアの多職種との連携(講義、動画教材視聴)</li> <li>15. 全体総括</li> </ol>				
<p>[履修に当たっての留意点] 終末期における介護福祉士は他職種連携のうえにおいてもキーマンである。様々な気づきはチームケアの方向性を決定することも少なくない。そのことを基軸としながら授業展開していく。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編 ) 第3巻 コミュニケーション技術/生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 他(資料授業中に紹介、配布)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ①筆記試験40%②提出物30%③授業態度30%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 介護過程 I		授業の種類 講 義		授業担当者 上田 勝己	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 前期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 特別養護老人ホームでの16年間における実務経験をもとに、対象者の「その人らしい生活とは何か」を、介護過程の展開を通して考えていく授業としたい。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、適切な介護計画の立案能力を養う。また、それらをどのようにケアに活かすかということを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 課題(ニーズ)を理解し目標を定め、求められる支援に導くための介護過程という思考能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であるということが理解できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「介護過程」の展開に関する全体像を概説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>2. 「介護過程」の意義と目的①を説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>3. 「介護過程」の意義と目的②を説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>4. アセスメントとケアプラン、介護計画について説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>5. アセスメントシート記入の方法を解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>6. 前回の学びから、セルフアセスメントシートを作成する(講義、動画教材視聴)</li> <li>7. セルフアセスメントシートからの自己覚知を促す(講義、動画教材視聴)</li> <li>8. 介護過程の構成要素を説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>9. 「科学的思考」を考える(講義、動画教材視聴)</li> <li>10. ICFの視点による介護過程の展開を概説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>11. 介護過程に沿った個別援助の必要性を説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>12. 問題解決過程を考える(講義、動画教材視聴)</li> <li>13. 「実践の科学」「生活の科学」としての介護過程を説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>14. ストレngths視点からの介護過程を解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>15. 前期総括</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点] 介護過程の授業内容は介護実習に直結するものが多く、第2段階実習においては個別援助計画作成、実施という課題もある。常に、実際の場면을イメージしながら取り組むことが大切である。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編) 第2巻 介護の基本/介護過程 他(資料授業中に紹介、配布)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ①筆記試験50% ②課題提出30% ③授業態度20%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 介護過程 I		授業の種類 講 義		授業担当者 上田 勝己	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 後期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)					
[授業の目的・ねらい]					
[授業全体の内容の概要]					
[授業終了時の達成課題(到達目標)]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. チームアプローチにおける介護福祉士の役割を考える(講義、グループディスカッション)</li> <li>17. ケア・介護の意義について解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>18. ケアプラン(介護サービス計画)と介護計画の関係性について解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>19. アセスメントと生活課題を考える(講義、動画教材視聴、実習課題活用)</li> <li>20. 「している活動」と「できる活動」について概説する(講義、動画教材視聴、実習課題活用)</li> <li>21. 介護過程の展開の実践(演習)における留意点を解説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>22. 【事例 1】①(グループワーク、動画教材視聴)</li> <li>23. 【事例 1】②(グループワーク、動画教材視聴)</li> <li>24. 【事例 2】①(グループワーク、動画教材視聴)</li> <li>25. 【事例 2】②(グループワーク、動画教材視聴)</li> <li>26. 【事例 3】①(グループワーク、動画教材視聴)</li> <li>27. 【事例 3】②(グループワーク、動画教材視聴)</li> <li>28. 介護福祉士の専門性である介護過程を考える①(グループ発表、動画教材視聴)</li> <li>29. 介護福祉士の専門性である介護過程を考える②(グループ発表、動画教材視聴)</li> <li>30. 後期総括</li> </ol>					
[履修に当たっての留意点]					
<p>チームアプローチの観点から介護福祉士の専門性である介護過程の展開を考えたい。グループでの活動が多くなるため、授業を通してチーム連携のあり方を学ぼうとする姿勢が大切である。</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
<p>介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編) 第2巻 介護の基本/介護過程 他(資料授業中に紹介、配布)</p>			<p>(試験やレポートの評価基準など) ①筆記試験50% ②課題提出30% ③授業態度20%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 上田 勝己
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 前期	必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）          介護認定審査会における委員としての経歴、また、特別養護老人ホームでの介護福祉士としての実務経験からも、他職種連携のあり方は介護過程の基本と考える。その共通言語であるICFの理解を深められる授業としたい。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]          ICFの視点により、介護の実践過程を構成する要素(人的、環境、ツール)の特性や活用方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          ICFの理解を深めるため、様々なグループワークに取り組む。ICFの構成要素ごとの分類能力やアセスメント能力の向上を目指したい。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]          他職種連携における介護福祉士の専門性というものが明確になる。そのことにより利用者を取り巻く環境を意識し、常に社会の動きに関心をもつことの重要性が理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報の種類と情報収集の方法を解説する①(講義、動画教材視聴)</li> <li>2. 情報の種類と情報収集の方法を解説する②(講義、動画教材視聴)</li> <li>3. 介護過程に必要な情報が理解できるように解説する①(講義、動画教材視聴)</li> <li>4. 介護過程に必要な情報が理解できるように解説する②(講義、動画教材視聴)</li> <li>5. 情報の取り扱いと職業倫理の関係について概説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>6. ICFの視点から要介護者を把握する意味を考える(講義、動画教材視聴)</li> <li>7. ICFの環境視点を概説する(講義、動画教材視聴)</li> <li>8. 要介護者個人の概要(個人因子)について説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>9. 健康状態に関する情報の把握について説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>10. 疾病・障害の状況(心身機能と身体構造)の把握について説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>11. 生活状況の把握:活動と参加(講義、動画教材視聴)</li> <li>12. 環境因子について説明する(講義、視聴覚教材視聴)</li> <li>13. 情報整理シートを理解する①(講義、視聴覚教材、グループワーク)</li> <li>14. 情報整理シートを理解する②(講義、視聴覚教材、グループワーク)</li> <li>15. 前期総括</li> </ol>				
<p>[履修に当たっての留意点]          ICFの基本的理解からフォーマットへの分類能力の習得を目標としている。他職種連携のためには欠かせない技能であるため、基礎的知識の積み重ねが重要である。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]          介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編)          第2巻 介護の基本/介護過程          他(資料授業中に紹介、配布)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]          (試験やレポートの評価基準など)          ①筆記試験50% ②課題提出30% ③授業態度20%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 講 義		授業担当者 上田 勝己
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 後期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)				
[授業の目的・ねらい]				
[授業全体の内容の概要]				
[授業修了時の達成課題(到達目標)]				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
<p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 後期オリエンテーション、グループワークの概要を説明する(講義、動画教材視聴)</li> <li>17. 介護過程を実践する①「本気で介護過程」(グループワーク)</li> <li>18. 介護過程を実践する②「本気で介護過程」(グループワーク)</li> <li>19. 介護過程を実践する③「本気で介護過程」(グループワーク)</li> <li>20. 介護過程を実践する④「本気で介護過程」(グループワーク成果の発表)</li> <li>21. 介護過程を実践する⑤「本気で介護過程」(グループワーク成果の発表)</li> <li>22. 介護過程におけるチームアプローチの実際を学ぶ①(事例検討、動画教材視聴)</li> <li>23. 介護過程におけるチームアプローチの実際を学ぶ②(事例検討、動画教材視聴)</li> <li>24. 介護過程におけるチームアプローチの実際を学ぶ③(事例検討、動画教材視聴)</li> <li>25. アセスメントツールの活用法を解説する①(講義、動画教材視聴)</li> <li>26. アセスメントツールの活用法を解説する②(講義、動画教材視聴)</li> <li>27. 終末期の介護過程を考える①(講義、視聴覚教材視聴)</li> <li>28. 終末期の介護過程を考える②(講義、視聴覚教材視聴)</li> <li>29. パーソンセンタードケアにおける介護過程の展開(グループワーク、動画教材視聴)</li> <li>30. 後期総括</li> </ol>				
[履修に当たっての留意点]				
<p>アニメ教材も活用し、ある事例に対してICFの視点から課題を抽出するグループワークを行う。各人の意見や着眼点をそれぞれの構成要素に分類していくため、毎回の出席が望まれる。</p>				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編) 第2巻 介護の基本/介護過程 他(資料授業中に紹介、配布)		(試験やレポートの評価基準など) ①筆記試験50% ②課題提出30% ③授業態度20%		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) <b>介護過程Ⅲ</b>		授業の種類 <b>講 義</b>		授業担当者 <b>上田 勝己</b>	
授業の回数 <b>15</b>	時間数(単位数) <b>30(2)</b>	配当学科・学年・時期 <b>介護福祉専攻科 後期</b>		必修・選択 <b>必 修</b>	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）          介護福祉士の職務において、カンファレンスのための書類作成、記録の管理能力は、継続したケアの実現のために重要である。特別養護老人ホームでの実務経験を教材として、現場で活用できる実践能力を身につけられる授業としたい。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]          介護過程におけるチームアプローチの重要性と介護福祉士として求められる専門性を自覚する</p> <p>[授業全体の内容の概要]          介護実習との相互性を活かし実践的思考とスキルの習得を目指す。その中で専門職としての理念を構築し、介護福祉士としてのアイデンティティを確立していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]          介護過程の展開における評価の重要性を理解し、その評価が正当なものであるかどうかの判断、また他者の計画への正当な評価ができるようなスキルを身につける。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>介護過程におけるチームアプローチの実際①</u></li> <li>2. <u>介護過程におけるチームアプローチの実際②</u></li> <li>3. <u>介護過程におけるチームアプローチの実際③</u></li> <li>4. <u>介護過程におけるチームアプローチの実際④</u></li> <li>5. 介護過程における説明と同意①</li> <li>6. 介護過程における説明と同意②</li> <li>7. 介護過程における説明と同意③</li> <li>8. アセスメントツールの活用①</li> <li>9. アセスメントツールの活用②</li> <li>10. アセスメントツールの開発①</li> <li>11. アセスメントツールの開発②</li> <li>12. 終末期の介護過程①</li> <li>13. 終末期の介護過程②</li> <li>14. 終末期の介護過程③</li> <li>15. 全体総括～専門職としてあるべき姿を見すえる</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]          介護実習における実践活動をケースレポートとしてまとめ上げるという作業は、介護福祉士養成校のカリキュラムにおいての集大成である。各科目で学んだ事柄を根拠として展開していくことが必要となってくる。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]          介護福祉士養成テキスト(日本介護福祉士養成施設協会編)          第2巻 介護の基本/介護過程          他(授業中に資料紹介、配布)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]          (試験やレポートの評価基準など)          ①ケースレポート提出50%②出席、授業態度50%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) <b>介護総合演習</b>		授業の種類 <b>演 習</b>		授業担当者 <b>山浦 あゆみ</b>	
授業の回数 <b>30回</b>	時間数(単位数) <b>60時間(4単位)</b>	配当学年・時期 <b>介護福祉専攻科 前期</b>		必修・選択 <b>必 修</b>	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 看護師としての医療現場と介護現場での臨床経験から、実習における基本的マナーと対象者への実際のかかわり方および、双方の安全を守る方法についての考え方を教授する。					
<p>[授業の目的・ねらい] 専門科目で得た知識と技術・人間関係構築技術を、実習で実践するための方法を学ぶ。授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための学習課題を明確にでき、学びたい事や不安に対し、自信を持って実習に臨めるようにする。実習施設の役割や、機能、利用者と家族のニーズを理解する。実習後には、自分の考えや意見を対外的に発表し、相手にどのように伝えるか、どのようにしたら理解を得られるかを身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 各段階の実習目標に沿った、実習の準備を行う。また実習後は実習で明確になった自己の課題の改善に向け、介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を行う。各段階の実習終了直後には、『実習成果報告会』として知識・技術の共有と、自己の振り返りの目的で、一人ずつ企画の立ち上げから準備、発表を行い実習成果の確認と、プレゼンテーション能力を養う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]①他者との人間関係構築のためのコミュニケーション技術や、社会規範、マナーを習得する。②介護施設の概要と、利用者の生活が理解でき、介護福祉士の役割を明確化できる。③自分自身の実習目標や課題を明確化できる。④他者とのディスカッションや、プレゼンテーションができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義:実習とはなにか、実習の意義と目的について説明する。</li> <li>2. 講義:介護活動の場と介護の特性について説明する－①特別養護老人ホーム、介護老人保健施設 障害者支援施設について(第1段階実習、第2段階実習のため)</li> <li>3. 講義:介護活動の場と介護の特性について説明する－②通所介護事業、重症心身障害児・者施設、訪問介護事業所について(第1段階実習、第2段階実習および在宅同行訪問実習のため)</li> <li>4. 講義:実習要項を使用して、介護実習とは何かを説明する。</li> <li>5. 講義:接遇マナー、コミュニケーション、実習時の連絡の仕方について説明する。</li> <li>6. 講義:実習の到達課題について、実習要項を使って説明する。(第1段階)</li> <li>7. 講義・演習:個人票の書き方について説明する。学生が記載する。－①下書き(第1段階)</li> <li>8. 演習:個人票を学生が記載する。－②本書き(第1段階)</li> <li>9. 講義・演習:『実習先について調べよう』の書き方について説明する。学生が記載する。－①下書き(第1段階)</li> <li>10. 演習:『実習先について調べよう』を学生が記載する。－②本書き(第1段階)</li> <li>11. 講義:オリエンテーションの受け方、オリエンテーションのアポイントの取り方について説明する。</li> <li>12. 講義・演習:実習記録の書き方と作成について説明する。－①実習日誌について</li> <li>13. 講義・演習:実習記録の書き方と作成について説明する。－②アセスメントシート、ADLシートについて</li> <li>14. 帰学日(第1段階)-中間報告書の記載を指導する。アセスメントシート、実習日誌の指導を行う。</li> <li>15. 講義:実習事後指導(第1段階)を行う。－①実習15日分の振り返り。</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点] 実習前においては、対象となる利用者様の安全・安楽・自立の視点で実習ができるよう、十分な準備をおこなうこと。実習後には、次の実習や学校生活に活かせるように振り返りを行うこと。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 介護実習要項			[単位認定の方法及び基準] ① 筆記試験:実習要項より(60%) ② 実習巡回指導時の姿勢・態度(30%) ③ 授業態度(10%)                      等 総合的判断		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習		授業の種類 演習		授業担当者 山浦 あゆみ	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 介護福祉専攻科 後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 看護師としての医療現場と介護現場での臨床経験から、実習における基本的マナーと対象者への実際のかかわり方および、双方の安全を守る方法についての考え方を教授する。					
[授業の目的・ねらい] 専門科目で得た知識と技術・人間関係構築技術を、実習で実践するための方法を学ぶ。 授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための学習課題を明確にでき、学びたい事や不安に対し、自信を持って実習に臨めるようにする。実習施設の役割や、機能、利用者と家族のニーズを理解する。実習後には、自分の考えや意見を対外的に発表し、相手にどのように伝えるか、どのようにしたら理解を得られるかを身に付ける。					
[授業全体の内容の概要] 各段階の実習目標に沿った、実習の準備を行う。また実習後は実習で明確になった自己の課題の改善に向け、介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を行う。各段階の実習終了直後には、『実習成果報告会』として知識・技術の共有と、自己の振り返りの目的で、一人ずつ企画の立ち上げから準備、発表を行い実習成果の確認と、プレゼンテーション能力を養う。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)]①他者との人間関係構築のためのコミュニケーション技術や、社会規範、マナーを習得する。②介護施設の概要と、利用者の生活が理解でき、介護福祉士の役割を明確化できる。③自分自身の実習目標や課題を明確化できる。④他者とのディスカッションや、プレゼンテーションができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 16. 演習:実習事後指導(第1段階)を行う。－②実習先への御礼状書き 17. 発表:実習成果報告会(第1段階)を行う。－①実習施設で学んだことや技術の伝達・報告を発表。 18. 発表:実習成果報告会(第1段階)を行う。－②実習施設で学んだことや技術の伝達・報告を発表。 19. 講義:実習の到達課題について、実習要項を使って説明する。(第2段階) 20. 講義・演習:個人票の書き方について説明する。学生が記載する。－①下書き(第2段階) 21. 演習:個人票を学生が記載する。－②本書き(第2段階) 22. 講義・演習:『実習先について調べよう』の書き方について説明する。学生が記載する。－①下書き(第2段階) 23. 演習:『実習先について調べよう』を学生が記載する。－②本書き(第2段階) 24. 講義・演習:実習記録の書き方と作成について説明する。－個別援助計画について 25. 講義:在宅同行訪問実習について説明する。在宅同行訪問実習とは、実習書類、オリエンテーション 26. 帰学日(第2段階)-現時点での課題の抽出・解決。個別援助計画、アセスメントシート、実習日誌の指導を行う。 27. 講義:実習事後指導(第2段階)を行う。－①実習20日分の振り返り。 28. 演習:実習事後指導(第2段階)を行う。－②実習先への御礼状書き 29. 発表:実習成果報告会(第2段階)を行う。－①実習施設で学んだことや技術の伝達・報告を発表。 30. 発表:実習成果報告会(第2段階)を行う。－②実習施設で学んだことや技術の伝達・報告を発表。					
[履修に当たっての留意点] 実習前においては、対象となる利用者様の安全・安楽・自立の視点で実習ができるよう、十分な準備をおこなうこと。実習後には、次の実習や学校生活に活かせるように振り返りを行うこと。また、後期の発表の機会においては、自身の実習での経験をこれからの介護に活かせるように、他者と共有できるようにプレゼンテーションに臨むこと。					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 第10巻介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 介護実習要項			[単位認定の方法及び基準] ① 筆記試験:実習要項より(60%) ② 実習巡回指導時の姿勢・態度(30%) ③ 授業態度(10%) 等 総合的判断		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 発達と老化の理解		授業の種類 講義		授業担当者 赤尾 真由美	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科・後期	必修・選択 必修		
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 看護師としての病院勤務・介護施設勤務の経験を活かし、生涯の心身の変化等について講じる					
<p>[授業の目的・ねらい] 成長・発達する過程を通して個人を理解し、老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を習得する 老化に伴う心理や身体機能の変化、およびその特徴に関する基礎的知識を習得する</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1.さまざまな発達理論があること、各発達理論における発達段階や発達課題、愛着について理解できる 2.老化にともなう身体的・心理的・社会的な変化が、どのように生活へ影響するのかを理解できる 3.高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点ができる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、人間の成長と発達の基礎的知識について概説する(講義)</li> <li>2. さまざまな発達理論について概説する(講義)</li> <li>3. ピアジェの認知発達理論についてまとめる(グループワーク) 社会的機能の発達について概説(講義)</li> <li>4. 老年期の定義と老年期の発達課題、喪失体験について概説する(講義)</li> <li>5. 高齢者疑似体験、加齢にともなう生理機能の変化について概説する(講義)</li> <li>6. 老化にともなう身体機能の変化と日常生活への影響について概説する(講義)</li> <li>7. 老化にともなう心理的、知的機能の変化と日常生活への影響について概説する(講義)</li> <li>8. 老化にともなう社会的な変化と日常生活への影響について概説する(講義)</li> <li>9. 高齢者の健康、高齢者の症状・疾患の特徴について概説する(講義)</li> <li>10. 高齢者に多い疾患とその留意点(骨・筋系、脳・神経系、皮膚・感覚器系)について説明する(講義)</li> <li>11. 高齢者に多い疾患とその留意点(循環器、呼吸器、消化器系)について説明する(講義)</li> <li>12. 高齢者に多い疾患とその留意点(腎・泌尿器、内分泌・代謝、歯・口腔系)について説明する(講義)</li> <li>13. 高齢者に多い疾患とその留意点(悪性新生物、感染症、精神疾患)について説明する(講義)</li> <li>14. 他職種との連携について事例検討(グループディスカッション)</li> <li>15. まとめと解説</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点] 実習の際に関わった高齢者の、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化にはどんなことがあるのかまとめておく</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 編集</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験70% 提出物15% 授業態度15%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 認知症の理解		授業の種類 講義		授業担当者 齋藤 至孝	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科・前期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）          知的障害者施設(就労支援施設)で生活支援員として7年、介護老人保健施設の支援相談員として8年の実務経験を活かし、実際の現場でのエピソードを交えながら、将来介護職についたときに役立つ内容の講義を行い、各自のイメージアップにつなげる。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]          認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          認知症の中核症状や心理・行動症状について学ぶと共に、認知機能の変化が生活に及ぼす影響の背景を理解することが具体的な対応策につながることを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]          ・認知症高齢者の尊厳を守り、安心できる安全な生活を支援するために必要な知識や技術を習得することができる。          ・認知機能の変化が生活に及ぼす影響について理解することができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「認知症の定義と診断基準」について解説する【講義・演習】</li> <li>2. 「脳の構造と認知症の症状との関係」について解説する【講義・演習】</li> <li>3. 「認知症の人の心理」について解説する【講義・演習】</li> <li>4. 「認知症の中核症状」について解説する【講義・演習】</li> <li>5. 「認知症の人の生活障害」について解説する【講義・演習】</li> <li>6. 「認知症のBPSD」について解説する【講義・演習】</li> <li>7. 「認知症の診断と重症度」について解説する【講義・演習】</li> <li>8. 「認知症の原因疾患と症状・生活障害」について解説する【講義・演習】</li> <li>9. 「認知症の治療薬」について解説する【講義・演習】</li> <li>10. 「認知症の予防」について解説する【講義・演習】</li> <li>11. 「認知症を取り巻く状況」について解説する【講義・演習】</li> <li>12. 「認知症ケアの理念と視点」について解説する【講義・演習】</li> <li>13. 「認知症の人の思いを尊重したサポート方法」について解説する【講義・演習】</li> <li>14. 「認知症による体験が生活に及ぼす影響」について解説する【講義・演習】</li> <li>15. まとめと解説</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]          毎回授業で行うテキストの範囲を読んでおくことを前提とする。授業で行うテキストの範囲は事前に知らせる。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]          最新・介護福祉士養成講座 1 3          「認知症の理解」          (その他、適宜資料を配布・紹介)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]          出席・授業態度 30%          試験(小テスト含) 70%</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 認知症の理解		授業の種類 講義		授業担当者 齋藤 至孝	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(4)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科・後期	必修・選択 必修		
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 知的障害者施設(就労支援施設)で生活支援員として7年、介護老人保健施設の支援相談員として8年の実務経験を活かし、実際の現場でのエピソードを交えながら、将来介護職についたときに役立つ内容の講義を行い、各自のイメージアップにつなげる。					
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 認知症の中核症状や心理・行動症状について学ぶと共に、認知機能の変化が生活に及ぼす影響の背景を理解することが具体的な対応策につながることを学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・認知症高齢者の尊厳を守り、安心できる安全な生活を支援するために必要な知識や技術を習得することができる。 ・認知機能の変化が生活に及ぼす影響について理解することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 「パーソン・センタード・ケア」について解説する【講義・演習】 2. 「認知症の人へのかかわりの基本」について解説する【講義・演習】 3. 「認知症の人の理解とアセスメントツール」について解説する【講義・演習】 4. 「認知症の人とのコミュニケーション」について解説する【講義・演習】 5. 「認知機能障害による生活への影響」について解説する【講義・演習】 6. 「認知症ケアの実際」について解説する【講義・演習】 7. 「認知症の人の人間関係づくり、社会への参加」について解説する【講義・演習】 8. 「認知症の人へのさまざまなアプローチ」について解説する【講義・演習】 9. 「認知症ケアの1つとしての環境づくり」について解説する【講義・演習】 10. 「家族介護者を支える介護福祉職の役割」について解説する【講義・演習】 11. 「認知症の人の家族の心理過程と葛藤」について解説する【講義・演習】 12. 「認知症の人の家族へのレスパイトケア」について解説する【講義・演習】 13. 「認知症の人の地域生活支援」について解説する【講義・演習】 14. 「認知症の人が地域で暮らすための多職種連携と協働」について解説する【講義・演習】 15. まとめと解説					
[履修に当たっての留意点] 毎回授業で行うテキストの範囲を読んでおくことを前提とする。授業で行うテキストの範囲は事前に知らせる。					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座13 「認知症の理解」 (その他、適宜資料を配布・紹介)			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度30% 試験(小テスト含)70%		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害の理解		授業の種類 講義		授業担当者 新井 正樹	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科 前期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>医療現場で実際、体験をした急性期の対応を交えて、授業の中で伝えていく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>高齢者・児童・障がい者のみならず、だれしも何らかの困難がある。 生活支援に対する基本的な知識を身に付ける必要がある。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>基礎的理解として、障害の概念、障害者福祉の基本理念を理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>国家試験の問題を実際に受けてもらい、間違えた箇所を再学習する。 (障害の理解のまとめたもの)</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンの意味や違いを説明する。</li> <li>2. 視覚の構造と機能、視覚障害者の原因となる眼疾患を説明する。</li> <li>3. 肢体不自由の原因や障害の状態を説明し、介護を行っていくために必要な考え方について伝える。</li> <li>4. 高次脳機能障害の具体的症状を伝え、支援の留意点について説明する。</li> <li>5. 内部障害(心筋梗塞、狭心症、心不全の違いについて説明する。)</li> <li>6. 障害のある人に対する介護(自己決定能力を育てることが必要であり、その点について説明する。)</li> <li>7. 内部障害(腎機能障害、それぞれの病態に応じ、定義、留意点を説明する。急性、慢性腎不全)</li> <li>8. 内部障害(呼吸機能障害について説明し、人工呼吸器装着手順、注意点を伝える。)</li> <li>9. 内部障害(膀胱、直腸機能障害、バルーンカテーテル及びびストーマの合併症について説明する。)</li> <li>10. ヒト免疫不全ウイルス(HIVとAIDSの違いと留意点の説明をする。)</li> <li>11. 内部障害(肝機能障害、B型・C型肝炎・肝硬変の流れや原因、症状などの説明。)</li> <li>12. 運動神経系の難病と内臓・血液系の難病等、特徴や援助などを説明する。</li> <li>13. 介護過程の重要性について説明する。</li> <li>14. 国家試験対策(障害の理解の問題を出題し、回答してもらう。)</li> <li>15. まとめと解説</li> </ol>					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>大切な内容については、書き留めること。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規 第4版 新・介護福祉士養成講座 「障害の理解」</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験 80%</li> <li>・授業出席率 20%</li> </ul>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみ		授業の種類 講 義		授業担当者 山浦あゆみ	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 介護福祉専攻科・ 前期	必修・選択 必 修		
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 看護師としての医療現場、介護現場での経験を活かし、介護に携わる際に必要な人間の心のあり方や人体の機能・疾患・治療を理解して、介護援助につなげられるよう講義をおこなう。					
[授業の目的・ねらい] 介護実践の際の基底的な根拠となる人体の構造や機能・生理を理解し、介護の必要性と、介護を受ける人の安全や安楽・自立、心理面への配慮について考えられるようになる。 また、医療職を中心とした多職種協働・連携の必要性が理解できるようになる。					
[授業全体の内容の概要] 介護の専門性の根拠となる心のありかたと身体の構造と生理を学び基礎知識として身に付ける。心の働きや人体の構造・生理、生命維持の働きを理解してから、移動・食事・清潔保持等の日常生活動作に関する介護実践との繋がりを学ぶ。さらに、終末期の人間の心の動きや死の受容、体の変化を理解する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・ こころのしくみ(基本的、社会的ニーズ、記憶、適応)について理解できる。 ・ からだのしくみ(人体各部の名称、人体の機能)を自分の身体に置き換えて、理解することができる。 ・ こころとからだの基礎的内容を、身じたく、移動、食事、入浴・清潔、排泄、睡眠等、生活や自立支援に必要な介護実践に活かすことができる。 ・ 死に対する心の変化、死の捉え方、終末期の体の変化と死後の身体の変化を理解できる。 ・ 医療職の役割と、介護職のできることを理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 講義:『こころとからだのしくみ』を学ぶ意義を概説する。基礎知識の確認のためにプレテストを実施する(内容は、からだについて、三大栄養素、死因順位等について確認する) 2. 講義:人間の基本的欲求について、「マズローのピラミッド」を基に説明する。(※最終に回すことあり) 3. 講義:適応理論について説明する。(1・2年次に履修している内容を引き出しながら説明)(※最終に回すことあり) 4. 講義:人間の記憶について説明する。(記憶のしくみ、長期記憶、短期記憶、展望記憶など) 5. 講義:からだのしくみ①細胞→組織→器官、細胞、核、DNAについては高校の知識を確認しながら説明する。 6. 講義:これから学ぶ器官系の全体の説明をする。(脳神経、呼吸器系、消化器系、骨・筋系、感覚器系、泌尿器系、生殖器系、循環器系、血液・リンパ、内分泌系の順で) ※以下①～⑥にICFの考えを含めて教授する 7. 講義:からだのしくみ②脳のしくみとはたらきについて説明する。 8. 講義: からだのしくみ③骨格系のしくみとはたらきについて説明する。 9. 講義:からだのしくみ④筋肉系(筋肉・腱・靭帯等附属物)のしくみとはたらきについて説明する。 10. 講義:介護実践の『移動』に関連する筋・骨格系のしくみとはたらきについて説明するー① 11. 講義:介護実践の『移動』に関連する筋・骨格系のしくみとはたらきについて説明するー②(機能低下と影響) 12. 講義:からだのしくみ⑤呼吸器系のしくみとはたらきについて説明する。 13. 講義:からだのしくみ⑥消化器系のしくみとはたらきについて説明する。 14. 講義:介護実践の『食事』に関連する消化器系のしくみとはたらきについて説明するー①(満腹・空腹のメカニズム食事に関連した感覚) 15. 講義:介護実践の『食事』に関連する消化器系のしくみとはたらきについて説明するー②(食べる仕組みの理解、咀嚼・嚥下機能低下の原因と影響)					
[履修に当たっての留意点] 専門用語も多く難解な科目であるので、自分自身の心身の認識から理解につなげられるよう、日々健康と自分の心と体を意識して過ごすこと。講義後には復習をおこなうこと。					
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ 他 (資料授業中に紹介、配布)			[単位認定の方法及び基準] ① 筆記試験(80%) ② 授業態度(10%) ③ 授業ごとのプレテスト(10%) 等 総合的判断		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) ころとからだのしくみ		授業の種類 講 義		授業担当者 山浦あゆみ	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 介護福祉専攻科・後期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 看護師としての医療現場、介護現場での経験を活かし、介護に携わる際に必要な人間の心のあり方や人体の機能・疾患・治療を理解して、介護援助につなげられるよう講義をおこなう。					
[授業の目的・ねらい] 介護実践の際の基底的な根拠となる人体の構造や機能・生理を理解し、介護の必要性と、介護を受ける人の安全や安楽・自立、心理面への配慮について考えられるようになる。 また、医療職を中心とした多職種協働・連携の必要性が理解できるようになる。					
[授業全体の内容の概要] 介護の専門性の根拠となる心のありかたと身体の構造と生理を学び基礎知識として身に付ける。 心の働きや人体の構造・生理、生命維持の働きを理解してから、移動・食事・清潔保持等の日常生活動作に関する介護実践との繋がりを学ぶ。さらに、終末期の人間の心の動きや死の受容、体の変化を理解する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ころのしくみ(基本的、社会的ニーズ、記憶、適応)について理解できる。</li> <li>・ からだのしくみ(人体各部の名称、人体の機能)を自分の身体に置き換えて、理解することができる。</li> <li>・ ころとからだの基礎的内容を、身じたく、移動、食事、入浴・清潔、排泄、睡眠等、生活や自立支援に必要な介護実践に活かすことができる。</li> <li>・ 死に対する心の変化、死の捉え方、終末期の体の変化と死後の身体の変化を理解できる。</li> <li>・ 医療職の役割と、介護職のできることを理解できる。</li> </ul>					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数					
16. 講義:からだのしくみ⑦感覚器系(眼、耳、鼻、口腔歯牙、皮膚・毛)のしくみとはたらきについて理解する。 17. 講義:介護実践の『身じたく』に関連する感覚器系のしくみとはたらきについて説明する。(皮膚・口腔歯牙の生理、身じたくの意味) 18. 講義:介護実践の『入浴・清潔保持』に関連する感覚器系のしくみとはたらきについて説明するー①(皮膚の汚れと発汗のしくみ等) 19. 講義:介護実践の『入浴・清潔保持』に関連する感覚器系のしくみとはたらきについて説明するー②(入浴・洗髪・その効果) 20. 講義:からだのしくみ⑧泌尿器系(腎臓、尿路、膀胱、尿道と尿の生成)について説明する。 21. 講義:介護実践の『排泄』に関連する泌尿器系のしくみとはたらきについて説明するー①(尿・便の生成、生理的意味の理解、排泄介助の必要性)* 消化器系の講義については、前期の13コマ目に説明済み 22. 講義:介護実践の『排泄』に関連する泌尿器系のしくみとはたらきについて説明するー②(機能低下の原因と影響、便秘・下痢の理解、排泄介助)* 消化器系の講義については、前期の13コマ目に説明済み 23. 講義:からだのしくみ⑨循環器系について説明する。(心臓、弁、動脈・静脈、冠状動脈のはたらきと疾患) 24. 講義:からだのしくみ⑩生殖器系について説明する。* 男女性差から、泌尿器系にもつながるように説明する。 25. 講義:からだのしくみ⑪内分泌系(ホルモン系統)について説明する。 26. 講義:からだのしくみ⑫血液(赤血球・白血球・血小板・血漿)、リンパ系について説明する。 27. 講義:介護実践の『睡眠の援助』に関連するしくみとはたらきについて説明する。ー①(睡眠のしくみと生理) 28. 講義:介護実践の『睡眠の援助』に関連するしくみとはたらきについて説明するー②(機能低下の原因と睡眠への影響) 29. 講義:死にゆく人のころとからだについて説明する。ー①(死のとらえ方について、終末期と死後の身体的・機能的変化) 30. 講義:死にゆく人のころとからだについて説明する。ー②(死の受容、家族も含めたころのケア、他職種連携)					
[履修に当たっての留意点] 専門用語も多く難解な科目であるので、自分自身の心身の認識から理解につなげられるよう、日々健康と自分の心と体を意識して過ごすこと。講義後には復習をおこなうこと。					
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座11ころとからだのしくみ 他 (資料授業中に紹介、配布)			[単位認定の方法及び基準] ① 筆記試験(80%) ② 授業態度(10%) 授業ごとのプレテスト(10%) 等 総合的判断		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 医療的ケア I		授業の種類 講 義		授業担当者 山浦 あゆみ
授業の回数 35回	時間数(単位数) 52.5時間(3単位)	配当学科・学年・時期 介護福祉専攻科・前期		必修・選択 必 修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）                  看護師の立場から、医療職ではない介護福祉士（取得見込み）の学生に対して、医療的ケアの意味や介護職が行う必要性・法的根拠・危険性の理解を基本として、医療職との連携と協働の方法を教授する。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]                  医療行為である『喀痰吸引』と『経管栄養』を、医療職との連携のもとで安全・適切に実施するために、消化器・呼吸器のしくみとはたらきを理解した上で、実践に必要なこころの理解と知識と技術を身に付けることができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]                  『喀痰吸引』と『経管栄養』という行為は、医療行為であることを確実に認識する。そのために、医療行為に関係する他職種との連携の理解や、医療的ケアを行う際の利用者の尊厳の厳守・倫理観の確立を図る。                  また、医療的ケアを実施するための基礎的知識として、人体の解剖・生理、感染予防について教授する。                  『喀痰吸引』と『経管栄養』を安全かつ正確に実施できるよう、基本的な手順を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療における倫理的配慮ができる。</li> <li>・医療的ケアが必要な利用者と家族の気持ちが理解できる。</li> <li>・医療的ケア実施時の、他職種との連携の必要性が理解できる。</li> <li>・医療的ケアの実施に関する、呼吸器官・消化器官のしくみとはたらきが理解できる。</li> <li>・医療的ケアを安全に実施するための衛生管理の方法や感染予防について理解できる。</li> <li>・喀痰吸引と経管栄養について基本的順序が説明でき、手順通りに実施できる。</li> <li>・介護福祉士の役割りである、報告と記録の必要性が理解できる。</li> </ul>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>回数(コマ数)                  ～1. はじめに:「医療的ケア」とは 科目の位置づけ 等について説明する。～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義: 人間と社会、「医療的ケア」を学ぶ意義、『医行為』の理解と危険性の認識、医療の倫理について説明する。(個人の尊厳と自立、利用者や家族の気持ちの理解、個人情報と守秘義務について)</li> <li>2. 講義: 保健医療制度と医行為に関する法律について説明する。(医行為に関係する法律、社会福祉士および介護福祉士法の改正、喀痰吸引等制度の概要、保健医療に関する制度について)</li> <li>3. 講義: チーム医療と介護職員との連携について説明する。(医療的ケアと喀痰吸引等研修、喀痰吸引と経管 栄養における、医療職と介護職の役割りおよび連携について) *演習チェックリストを参照しながら説明をする。</li> <li>4. 講義: 安全な療養生活について説明する。－①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、リスクマネジメント、ヒヤリハット(インシデント・アクシデント)について</li> <li>5. 講義: 安全な療養生活について説明する。－②救急蘇生について</li> <li>6. 講義: 清潔保持と感染予防について説明する。－①スタンダードプリコーション、手洗いと手指消毒法および含漱について</li> <li>7. 演習: 清潔保持と感染予防について説明する。－②感染予防対策、療養環境の清潔・消毒法、滅菌と消毒 演習内容(滅菌手袋の装着方法、撮子と綿球の取り扱い方法)</li> <li>8. 講義: 健康状態の把握と観察方法について説明する。－①身体面と精神面、バイタルサイン測定方法 他</li> <li>9. 講義・演習: 健康状態の把握と観察方法について説明して演習する。－②バイタルサイン測定(1)呼吸・脈拍 血圧・体温・意識レベル、平常時の健康状態の観察と把握について</li> <li>10. 講義・演習: 健康状態の把握と観察方法について説明して演習する。－③バイタルサイン測定(2)呼吸・脈拍・血 圧・体温・意識レベルの見方について</li> <li>11. 講義: 健康状態の把握と観察方法について説明する。－④急変状態の観察と把握および対応、報告と準備に ついて</li> <li>12. 講義: 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(1):呼吸のしくみとはたらきについて説明する。</li> </ol>				

13. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(2):いつもと違う呼吸と、喀痰吸引を安全に実施する方法について説明する。
  14. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(3):喀痰吸引について説明する。
  15. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(4):人工呼吸器と吸引(非侵襲的、侵襲的)について説明する。
  16. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(5):子どもの吸引について説明する。吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意の仕方について説明する。
  17. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(6):呼吸器系の感染と予防、喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認について説明する。
  18. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論(7):急変・事故発生時の対応と事前対策について説明する。
  19. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順について解説する。－①喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持について説明する。
  20. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順について解説する。－②吸引の技術と留意点、実施手順について説明する。
  21. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順について解説する。－③吸引の技術と留意点、実施手順について説明する。
  22. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順について解説する。－④吸引の技術と留意点、実施手順について説明する。
  23. 講義:高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順について解説する。－⑤喀痰吸引にともなうケア、報告および記録について説明する。
- \*上記19.～23. および30.～34.演習チェックリストと器具・機械を参照しながら介護実習室にて説明をする。
24. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養概論(1):消化器系のしくみとはたらきについて説明する。
  25. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養概論(2):消化・吸収とよくある消化器の症状について説明する。
  26. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養概論(3):経管栄養と、経管栄養の種類について説明する。
  27. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養概論(4):注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点を説明する。
  28. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養概論(5):子どもの経管栄養について。経管栄養に関係する感染予防について。経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意について説明する。
  29. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養概論(6):経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、急変事故発生時の対応と事前対策について説明する。
  30. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順について解説する。－①経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持について説明する。
  31. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順について解説する。－②経管栄養の技術と留意点①
  32. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順について解説する。－③経管栄養の技術と留意点②
  33. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順について解説する。－④経管栄養の技術と留意点③
  34. 講義:高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順について解説する。－⑤経管栄養に必要なケア
  35. まとめと解説

[履修に当たっての留意点]  
 専門用語も多く難解な科目であるので、自分自身の心身の認識から理解につなげられるよう、日々健康と自分の心と体を意識して過ごすこと。講義後には復習をおこなうこと。

<p>[使用テキスト・参考文献]          介護福祉士養成テキスト4:医療的ケア          介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト          (中央法規出版)          ・他(資料授業中に紹介、配布)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]          ① 筆記試験(9割以上得点で合格*科目の必須条件)          ② 筆記試験に合格しないと、演習を受講できない  <b>*上記①、②は厚生労働省の規定であり必須条件</b></p>
--	---

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 医療的ケアⅡ	授業の種類 演 習	授業担当者: 山浦あゆみ・赤田実千代	
授業の回数 20回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 介護福祉専攻科・後期	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 看護師の立場から、医療職ではない介護福祉士(取得見込み)の学生に対して、医療的ケアの意味や介護職が行う必要性・法的根拠・危険性の理解を基本として、医療職との連携と協働の方法を教授する。			
[授業の目的・ねらい] 医療行為である『喀痰吸引』と『経管栄養』を医療的ケアⅠの講義を基礎知識として、医療職との連携のもとで安全・適切に実施するために、演習にて技術を身に付けることができる。 [授業全体の内容の概要] 『喀痰吸引』と『経管栄養』という行為は、医療行為であることをシュミレーターモデルに実施することで、改めて認識する。シュミレーターモデルに実施することで、医療的ケアを行う際の利用者の尊厳の厳守・倫理観の確立を図る。また、『喀痰吸引』と『経管栄養』を安全かつ正確に実施できるよう、基本的な手順を学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・『喀痰吸引』の基本的順序が説明でき、手順通りに実施できる ・『経管栄養』の基本的順序が説明でき、手順通りに実施できる ・シュミレーター(喀痰吸引および経管栄養それぞれの)を活用して、効果的に実施できる ・利用者(シュミレーター)に対して、必要な説明や声掛けができる ・利用者(シュミレーター)に対して、必要な観察ができる ・『喀痰吸引』と『経管栄養』を、1人で実施できる ・介護福祉士の役割である、報告と記録の必要性が理解でき、実施できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 回数 1. 演習) 経管栄養: 胃ろう又は腸ろう① 2. 演習) 経管栄養: 胃ろう又は腸ろう② 3. 演習) 経管栄養: 胃ろう又は腸ろう③ 4. 演習) 経管栄養: 胃ろう又は腸ろう④ 5. 演習) 経管栄養: 経鼻経管栄養① 6. 演習) 経管栄養: 経鼻経管栄養② 7. 演習) 経管栄養: 経鼻経管栄養③ 8. 演習) 経管栄養: 経鼻経管栄養④ 9. 演習) 喀痰吸引: 口腔内吸引① 10. 演習) 喀痰吸引: 口腔内吸引② 11. 演習) 喀痰吸引: 口腔内吸引③ 12. 演習) 喀痰吸引: 口腔内吸引④ 13. 演習) 喀痰吸引: 鼻腔内吸引① 14. 演習) 喀痰吸引: 鼻腔内吸引② 15. 演習) 喀痰吸引: 鼻腔内吸引③ 16. 演習) 喀痰吸引: 鼻腔内吸引④ 17. 演習) 喀痰吸引: 気管カニューレ内部の吸引① 18. 演習) 喀痰吸引: 気管カニューレ内部の吸引② 19. 演習) 喀痰吸引: 気管カニューレ内部の吸引③ 20. 演習) 救急蘇生法			
[履修に当たっての留意点] 1テーマごとに完結させる科目であり、その都度の手技の習得が不可欠であるため、真剣に臨むこと。			
[使用テキスト・参考文献] ・介護福祉士養成テキスト4: 医療的ケア (日本介護福祉士養成施設協会) ・介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修 テキスト(中央法規出版) ・他(資料授業中に紹介、配布)	[単位認定の方法及び基準] ・実施回数: ①口腔内吸引 = 5回以上 ②鼻腔内吸引 = 5回以上 ③胃ろう又は腸ろう経管栄養 = 5回以上 ④経鼻経管栄養 = 5回以上 ⑤救急蘇生法 = 1回以上 *評価基準: ・4回演習後に、5回目は読み上げや助言がない状態で、自分一人で実施できること ・手引きの手順通りにできること ・すべての項目が評価=Aであること		